

教育事務所だより

令和4年3月11日発行

今年度の管内の実践から思うこと

所長 片寄 泰史

今年度、管内においてもたくさんの小中・義務教育学校に指導主事が学校訪問させていただきました。このコロナ禍においても学習指導要領やしまね教育魅力化ビジョンを踏まえ不断の努力で授業研究を重ね、授業改善を図っておられる学校園に対して敬意を表します。その中で、ある中学校では、生徒の実態を「自信がなく自己表出が苦手」「コミュニケーション力に課題がある」と捉え、生徒に育てたい資質・能力を設定されました。そして、その育成に向けて各教科でできることまで具体化し、また、この中学校でめざす授業（授業における子どもの姿）を「いろいろな意見や考え方を認めたり、わからない箇所を質問したりし、他者とともに学ぼうとしている」「他者の話をしっかり聞き、自分の言葉でわかりやすく表現しようとしている」というように具体的に位置付けて「見える化」し、教職員で共有され、授業改善に取り組まれました。この取組による生徒の変容も見られています。

私は10年近く前に、ある研修を受けましたが、そのときに研修講師が話したエピソードが今でも心に残っています。それは、各国から学生が参加して開催された国際会議での一コマの話です。10年も前の話ですので、記憶に曖昧なところがありますが、およそ次のようなものでした。

その会議は、各国の学生一人ずつ8名程度でグループを作り、決められたテーマで討論をするという形式だったようです。すると、A国の学生は、まさに自分がこのグループのリーダーだと言わんばかりに、テーブルの中心の一番席に座ります。すると、B国の学生はそれなら自分は当然A国に対峙する立場だと対面に座ります。C国やD国もじゃあ次の席は当然自分だろうと座ります。このような中、日本の学生はどうしたかという、にこにこしながら「じゃあ、自分が議事の記録をします。」と言って、テーブルの一番隅の席に座って、その後、喧々諤々と議論が行われる中で、黙々とパソコンで議事録を取っていったそうです。これは、このグループの日本の学生がたまたまそうただけであって、他のグループでは一番席に座って活発に議論をしていた学生もいたのかもしれませんが、研修講師の話では、日本の学生はこのパターン（討論で積極的に自分の発言をしない。しかし、作成する議事録は正確なものである）が多いという話でした。つまり、語学力があり、議論全体を把握する力もあるのに、自分の考えを出すことはしない。他者との議論や調整の場に積極的に関わって自分の意思表示や意思決定をしない姿が浮かび上がってきます。

内閣府の「日本の若者意識の現状～国際比較からみえてくるもの～」(「子供・若者白書」令和元年度版)によると、日本の若者は「自分自身に満足している」「自分には長所がある」と感じている割合が諸外国に比べて低いとともに、「社会をよりよくするため、私は社会における問題の解決に関与したい」に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が諸外国と比べて最も低かったという結果が出ています。この調査結果からは、自分に自信がなく、社会の問題解決への関与意識が希薄な様子が窺えます。

以上のお話からまとめると、諸外国に比べて自信がなく意思表示や意思決定に積極的でなく、社会の課題解決へ関わる思いが希薄である日本の若者像の傾向が見て取れます(もちろん個人差はありますが)。

管内でも、前述した中学校だけでなく、児童生徒の実態を「自己表出をすることが苦手」「指示待ちで自分から動こうとしない」「積極的にコミュニケーションをしたがらない」と感じておられる小中・義務教育学校が少なからずあると思います。

子どもたちの実態から、育てたい児童生徒像を明確にし、教職員で共有しながら授業等における子どもの姿まで具体化しPDCAサイクルで回していくカリキュラム・マネジメントの取組の積み重ねが、今後の我が国の若者像をよりよい方向へ向けていくことになると信じています。

最後に、私が前述した10年前に受けた研修の講師は、今後、児童生徒に必要なことは、自己決定、自己決断の場をたくさんもたせることだと話されたことを申し添えます。



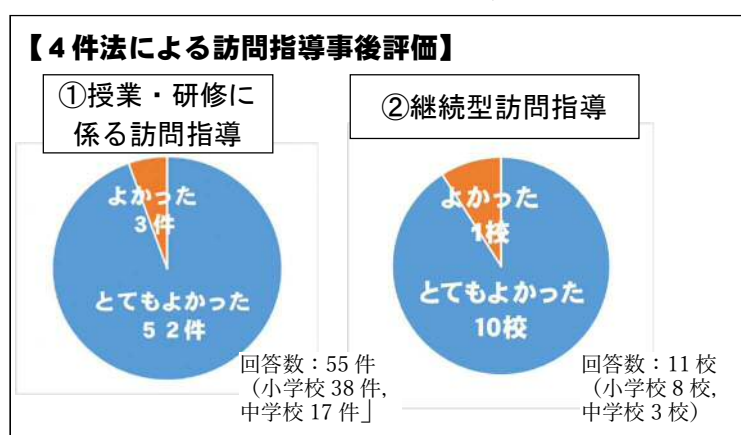
今年度の学校訪問指導を振り返って

1. 学校の主体的な取組を支援する訪問について

今年度の学校訪問指導の実施総数は451回でした。中でも県の指定事業校を含む継続型訪問指導実施校（11校：102回）は、目指す児童生徒像を明らかにし、カリキュラム・マネジメントや授業改善を積極的に進められました。また、申請訪問指導実施校（31校：51回）についても、研究授業や校内研修を機に、授業づくりについて主体的に学ぼうとする先生方の熱意を感じることができました。

これらの学校で訪問指導事後アンケートを実施し、効果を検証しました。アンケートは、①研究授業及び協議、または校内研修の訪問指導後のアンケート（選択式）、②継続型訪問指導終了後のアンケート（記述式）の2種類です。下のグラフにあるように「とてもよかった」という回答が、①②ともに9割以上で、概ね学校の期待に沿うことができたと受け止めています。

また、学校訪問指導に対する要望として、「他の学校の訪問指導の際の指導案や授業動画など共有できるとよい」「継続型ではなくても、事前の相談や研究内容についての助言をもらうための訪問指導の形はないか？」といったご意見がありました。これらを真摯に受け止め、来年度の訪問指導に生かしていきたいと考えています。お忙しい中、アンケートにご協力いただきありがとうございました。



【よかった理由】（複数回答可）

授業・研修に係る訪問指導実施校55件の回答より

授業改善に役立った。	45
校内研究推進の機会となった。	40
学習指導について理解が深まった。	31
教員の研修意欲を高める機会となった。	30
教材について理解が深まった。	29
「主体的・対話的で深い学び」について理解が深まった。	24
求められる学力について理解が深まった。	17
県が目指す教育の方向・施策、新学習指導要領の趣旨について理解が深まった。	9

【授業・研修に係る訪問指導の感想（抜粋）】

- 教科のねらいに迫るためのICT機器の活用、NHK for Schoolの活用について学べた。
- 質問に答える形で講義してもらったので、困っていたこと、疑問に思っていたことを明らかにできてよかった。
- 指導助言の際、主体的・対話的な学びのポイントを分かりやすく説明してもらい理解が深まった。

【継続型訪問指導の感想（まとめ）】

- 本校の研究内容を踏まえて、単元構想の段階から丁寧に関わってもらった。
- 参考になる資料や関連する事例を紹介していただき、より深く指導を受けることができた。
- 些細なことでも気軽に相談できるのがよい。
- 子どもたちの実態に合わせてどうしたら力をつけることができるのか共に考えてもらった。
- 年度の早い時期から何度も指導してもらえる継続型は、研究の推進にとっても有効だと思う。

2. 授業改善推進並びに新任教職員の状況把握に係る訪問について

中学校の新学習指導要領全面実施に伴い、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」や学習評価を行うにあたり、その内容の一層の理解を図り、適切に進められることを目的に管内全中学校、義務教育学校（後期課程）へ学校訪問を実施しました。各校の授業改善の方向性や指導と評価の一体化について、考える機会として活用していただきました。

今年度新設した「新任教職員の状況把握に係る訪問」では、新任教職員、管理職及び指導教員からの聞き取りを実施しました。勤務の状況を把握するとともに、新任教職員の思いを受け止め、必要に応じて助言したり、校内の支援体制について協議したりしました。また、市教育委員会や島根県教育センター等の関係機関と連携して、その後の支援につなげることができました。

来年度の学校訪問指導について

新学習指導要領実施に伴い4年間実施してきた悉皆訪問は今年度で終了しますが、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善について、各校の取組をさらに後押ししていきたいと考えています。そこで、各学校のニーズに応じた、よりきめ細かな支援をするため「支援・相談型訪問指導」を新設します。「研究の進め方が分からない」「授業づくりについて相談したい」「とりあえず普段の授業を見に来てもらって、授業改善への意識を高めたい」など、ぜひご活用ください。

種類	種別
I 授業改善推進に係る訪問指導	①継続型訪問指導
	②研究推進型訪問指導
	③授業力向上型訪問指導
	④支援・相談型訪問指導 新設
II 幼小接続に係る訪問指導	①校内研修に係る訪問
	②幼小交流に係る訪問指導
III 初任者※研修, 経験者研修(教諭)に係る訪問指導	①初任者の状況把握に係る訪問(5月～7月)
	②初任者研修に係る訪問指導(9月～)
※初任者 =新規採用の教諭のこと	③教職経験6年目研修(教諭)及び中堅教諭等資質向上研修(教諭)に係る訪問指導
IV 養護教諭, 栄養教諭, 事務職員等の研修・職務に係る訪問指導	①新任教職員の状況把握に係る訪問(5月～7月)
	②新任教職員研修に係る訪問指導(7月～12月)
	③教職経験6年目研修及び中堅教諭等資質向上研修に係る訪問指導
	④学校の希望による訪問指導
V 生徒指導に係る訪問指導	①県事業実施校訪問指導
	②学校の希望による訪問指導
VI 特別支援教育に係る訪問指導	①特別支援学級新任担当者対象訪問指導
	②通級指導教室新任担当者対象訪問指導
	③新設通級指導教室訪問指導
	④にこにこサポート事業実施校訪問
	⑤学校の希望による訪問指導
VII 特別支援教育支援専任教員による学校訪問支援	

今の授業を、もっと子ども主体の授業にしていきたいけれど、どこか相談できるところはないかなあ。



授業づくりや評価について、個人、学年部、教科部といった個別の相談もできます。新設の支援・相談型で気軽に呼んでください。



6年研, 中堅研の校内研修を進めたいけれど、教科のことやカリキュラム・マネジメントのことがよくわからなくて、チームの協議が進まないのよね…。



課題研究の方向性についての相談, 授業づくりの事前協議, 研究授業当日の助言・指導等, 経験研のOJTを支援します。



養護教諭や事務職員から職務について相談されたが、専門的なことはわからなくて…。



経験研の授業づくりや、専門的な職務について、個別に相談することも可能です。事務所から教育センターや保健体育課の担当指導主事につながります。



クラスに支援が必要な子どもが複数いて、どうしていいかわからなくて…。



特別支援教育支援専任教員は、特別支援学級の相談だけでなく、通常の学級の相談も受け付けています。困ったら管理職に相談のうえ、まずは遠慮なくお電話ください。



*詳細は4月1日付で送付予定の来年度実施要項でご確認ください。

多様な考えを伝え合い、考える過程を共有する授業

～複式教育推進指定校事業 比田小学校の取組から～

今年度の複式教育推進指定校事業では、安来市立比田小学校など県内3校が複式教育、特に学年別指導の研究を進めました。比田小学校は、昨年までの研究を基盤にしながらか授業研究をとおして授業改善に取り組み、12月8日（水）には5・6年算数科の授業と研究協議を公開されました。

比田小学校では、研究主題「自分の思いや考えをもち、ともに学び合う子どもの育成 ～複式学級における個や集団の学びを生かした算数科の授業づくりを通して～」のもと、次の二つの視点から研究に取り組みされました。①子どもが自分たちで学習したと実感できるような学年別指導の学び方や課題設定、課題提示の仕方、ICTの活用方法を工夫する。②数、式、図、表、グラフ、文章等の表現を活用して考えをもつ活動を継続的に取り入れ、考える過程を共有できるように工夫する。

公開日、5年「面積の求め方を考えよう」7/11 時間目、6年「考える力を伸ばそう」1/2 時間目の授業では、学年ごとにガイド（その日の担当の子ども）の進行で進みました。ここでは、5年の単元4時間目（三角形）と7時間目（台形）に出た考えとその共有の様子を紹介します。

「三角形の面積の求め方を考えよう」4時間目 【個人思考】

A児 あわせる

図のように、三角形を2つあわせると平行四辺形ができます。平行四辺形の（面積の）求め方は、底辺×高さなので $6 \times 4 = 24$ 答え 24 cm^2
三角形を2つがついているから、 $24 \div 2 = 12$

B児

もう一つの三角形をつけると長方形ができます。長方形の面積は、たて×横で求めるから、式は $4 \times 6 = 24$ 24 cm^2
三角形を2つがついているから、 $24 \div 2 = 12$

D児

右の図のように、三角形を2まいつかって、1まいはそのまま、1まいは真ん中を切って、それで組み合わせると長方形になって、長方形の面積は、たて×横で求めることができるので、 $4 \times 6 = 24$ で 24 になるけど、三角形を2まいつがついているから、 $24 \div 2 = 12$ 答え、 12 cm^2

E児

上の図のように、三角形を3等分して、かけた部分をうめだいで、かけらをかけた部分にくっつけました。そうすると、長方形ができます。長方形は、たて×横で求められます。そうすると、 $4 \times 3 = 12$ で 答えは 12 cm^2 だと思います。

5人がそれぞれ自分の考えを図や式、言葉で上記のようにかき表しました。（C児はB児と同じ）

【集団思考】

A児から順にE児まで発表した後、D児の考えに対して、E児から質問が出ました。

E児：「真ん中」って書いてあるけど、どういふふうに切るんですか。

D児：「真ん中」じゃなくて、・・・。

A児：上の点からまっすぐ切る？

T：上の頂点から底辺に垂直に下ろした直線でいいかな。

【まとめ】

C児：まとめは、「三角形の面積は、長方形や平行四辺形にして求めることができる」でいいですか。

全員：いいです。

「台形の面積の求め方を考えよう」7時間目

【個人思考】

C児

台形を4つの三角形に分けて、番号をつけて、三角形は底辺×高さ÷2で求められるから、すべての三角形の面積は、
① $2 \times 4 \div 2 = 4$
② $3 \times 4 \div 2 = 6$
③ $3 \times 4 \div 2 = 6$
④ $4 \times 4 \div 2 = 8$
ぜんぶで、 $4 + 6 + 6 + 8 = 24$
台形の面積は、 24 cm^2 になります。

D児

左の図のように、台形を2つがつけて平行四辺形をつくって、平行四辺形の面積は、底辺×高さで $12 \times 4 = 48$
 48 だけど、台形を2つがついているから、 $48 \div 2 = 24$ 答え 24 cm^2

A児

2つの台形をつかって、1つはそのまま、もう一つは、点Dからおろしたけど・・・

点Dから直線におろしたところで切り分けて、台形をくっつけて1つの長方形をつくりました。長方形の面積は、たて×横で、台形を2つがついているので、
式は、 $12 \times 4 \div 2 = 24$

【集団思考】

A児：C児のやり方は、ちょっと大変そうだけど、たして求める式もあると思いました。

・・・

A児：台形を使って、一つはそのまま、もう一つは、点Dから下ろした線で切ったけど、あとは時間がなかったから・・・（他の子どもたちといっしょに上記のように自分の杓子ボードをかき上げる）

【まとめ】

E児：台形の面積は、長方形や平行四辺形や三角形になおして求めることができる。

日頃から6年生が杓子ボードにかく様子を見て参考にしようとしており、個人思考ではすべての子どもが自分の考えを詳しく杓子ボードに表現していました。集団思考では、既習の図形に倍積変形、等積変形、分割すれば新しい図形も面積を求められることを見つけていました。「真ん中」など曖昧な言語表現への疑問から、図形の構成要素に着目し、よりの確な表現につなぐこともできました。次の時間、すべての方法がもとの図形の底辺（上底や下底）と高さを使っていることから公式を導きました。

研究協議では、自分たちで学習を進める「ガイド学習」や自分の考えを丁寧に表現する指導を、低学年から継続していくこと、教師は個や全体のつまづき等を捉え、思いを受け止め、助言することの大切さなど、参考になったという意見が多く聞かれました。

*注：子どもの考えは、子どもがかいた図や文を記録者がかき写したものです。□囲みは他の子どもたちの助言でかき加えたもの。

安来市 ICT 活用教育について

安来市派遣指導主事 宮廻 繁

今年度から2年間の計画で安来市では、「安来市 ICT 活用教育研究指定校事業」を伯太中学校区の小中学校で取り組んでもらっています。指定校事業では、教科等の特質に応じ、ICT を活用し、「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、両方の学びを一体的に充実していくことを目指しています。

校区の5校は市内の教職員に向け、以下の授業公開に併せ、今年度の取組について発表しました。

学校名	学年	教科等	単元名	ICT の利活用場面
母里小	2年	生活科	もりっこ町のたんけんたい	町探検で知ったことや調べたことを紹介するためにタブレット端末のホワイトボードアプリを使い、グループで協働してまとめる。
赤屋小	3・4年	国語科	想像したことを伝え合おう	物語文から読み取ったことをタブレット端末のホワイトボードアプリで共有し、自分や友達の考えの変容をアンケート作成・管理ソフトを使い確認する。
井尻小	1年	算数科	かたちあそび	身の回りにある形を見つけ、タブレット端末のホワイトボードアプリで作ったクイズをもとに、学び合う。
安田小	6年	理科	電気と私たちの生活	実験結果や考察を電子黒板に表し、クラスで共有し話し合う。
伯太中	1年	総合的な学習の時間	ふるさと伯太町を知る	地域についてフィールドワークで学んだことをグループごとにプレゼンテーションソフトでまとめ、学校と地域をオンラインで結び発表会をする。

指定の各校は、ICT の活用自体が目的化しないよう留意しながら、全ての子どもたちの可能性を引き出すこと、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進めることを目標にこれからも日々取り組んでいきます。市内の学校でも情報を共有し、子どもたちのために ICT 活用教育の更なる推進を図っていきます。

令和3年度 生徒指導担当者研修について

松江市派遣指導主事 小原 亜子

松江市では、例年、各校の生徒指導主事、主任等を対象にした「生徒指導担当者研修」を実施しています。今年度は11月19日に、高知市教育研究所副所長兼教育支援センター長 吉本恭子氏を講師としてお招きし、「楽しい学級・学校づくりのために～Q-Uの結果を活用して教師力アップ～」、「みんなを幸せにするブリーフ・ミーティングの理論と実践」をテーマに研修をしていただきました。

研修では、「児童生徒の『問題行動を減らす』のではなく『適切な行動を増やす』など『学級担任二つの姿勢と五つの指導』、「アンケート Q-U を効果的なツールとしてどのように活用していくのか」など参加者がすぐにも実践したくなるような話でした。

(ブリーフ・ミーティング演習の様子)

また、ブリーフ・ミーティングの演習では、研修参加者の7名にブリーフ・ミーティングを体験してもらいました。学校で実施されているケース会議は「時間がかかる」「具体的な対応方針がなかなか見い出せない」ことが課題であるという声を耳にしますが、今回の演習では、参加者が解決志向でアイデアを出し合うことによって、最後には対応方針が明確になりました。研修参加者からは、ぜひ学校で実践したいとの声が聞かれました。



今後、研修を受けられた先生方を中心に各校でブリーフ・ミーティングが実践されることを願っています。

※ブリーフ・ミーティングのメリットは、「30分でスッキリ!」「メモをとらず、一つのホワイトボードに記録することで課題に集中でき、ゴールがわかりやすい」など解決志向でアイデアが出やすい会議方法です。

令和4年度 管内研修会等予定

R4. 2. 22現在
松江教育事務所

月	日(曜)	研修会等	会場
4	14(木)	新任教職員研修に係る連絡協議会(小学校・中学校 <small>各校方式</small> ・養護教諭・栄養教諭)	各学校(オンライン)
	15(金)	新任教職員研修に係る連絡協議会(中学校 <small>拠点校方式</small>)	各学校(オンライン)
	19(火)	全国学力・学習状況調査	各学校
	20(水)	ゼロから学びたい先生のための教科教育研修(中学校免許外:技術)	浜田教育センター
	22(金)	新任講師等・講師等対象授業づくり研修(第1回)	各学校(オンライン)
		小・中学校特別支援学級,通級指導教室新任担当教員研修(第1回)	島根県教育センター
ゼロから学びたい先生のための教科教育研修(中学校免許外:美術・保体)		浜田教育センター	
5	23(月)	教育施策説明会(小・中学校長対象)	松江合同庁舎
	24(火)	管理職研修(新任校長 第1回)	各学校(オンライン)
		小・中学校事務職員新任事務リーダー研修(第1回)	島根県教育センター
	25(水)	新任特別支援教育コーディネーター研修	島根県教育センター
	27(金)	管理職研修(新任副校長・新任教頭 第1回)	島根県教育センター
		小・中学校新任研究主任等研修	松江合同庁舎
		ゼロから学びたい先生のための教科教育研修(中学校免許外:家庭)	浜田教育センター
31(火)	日本語指導が必要な児童生徒研修(新任担当者)	出雲合庁	
6	1(水)	ゼロから学びたい先生のための教科教育研修(中学校免許外:音楽)	浜田教育センター
	3(金)	キャリア教育研修	各学校(オンライン)
		生徒指導主任・主事等研修	松江合同庁舎
		特別支援学級担任スキルアップ研修(第1回)	島根県教育センター
	9(木)	特別な支援のための非常勤講師(にこにこサポート事業)研修	松江合同庁舎
		複式学級新任担当者研修	各学校(オンライン)
	10(金)	小・中学校事務職員主事研修(第1回)	島根県教育センター
	17(金)	小・中学校事務職員事務主幹研修(第1回)	島根県教育センター
	21(火)	人権教育等担当主任研修	松江合同庁舎
		特別支援教育専門性向上研修	島根県教育センター
	22(水)	管理職研修(2年目副校長・2年目教頭 第1回)	島根県教育センター
		中・高等学校体育実技研修(～23日)	松江合庁・松江市総合体育館
	24(金)	特別支援学級担任3年目研修	島根県教育センター
29(水)	小・中学校等校長学校経営実践研修	各学校(オンライン)	
30(木)	主幹教諭研修(新任)	島根県教育センター	
7	1(金)	主幹教諭研修(2年目)	島根県教育センター
	7(木)	管理職研修(新任副校長・新任教頭 第2回,3年目副校長・3年目教頭)	島根県教育センター
	15(金)	学校図書館活用研修	島根県教育センター
	27(水)	ふるさと教育研修	島根県教育センター
	30(土)	科学の甲子園ジュニア島根県予選大会	(未定)
8	18(木)	小・中学校特別支援学級,通級指導教室新任担当教員研修(第2回)	各学校(オンライン)
	19(金)	初任者研修連絡協議会 ※養護教諭と栄養教諭の連絡協議会は8/25	松江合同庁舎
	26(金)	小・中学校教務主任研修	松江合同庁舎
9	21(水)	新任講師等・講師等対象授業づくり研修(第2回)	島根県教育センター
	22(木)	中学校体育教員武道研修(柔道・剣道)	島根県立武道館・職員会館
10	6(木)	栄養教諭研修	島根県教育センター
	7(金)	小・中学校事務職員事務主幹研修(第2回)	浜田教育センター
		通級による指導担当教員等研修	松江合同庁舎
	12(水)	ミドルリーダー育成研修第1回～13日(木)	三瓶青少年交流の家
	18(火)	小・中学校等教頭学校運営実践研修	各学校(オンライン)
	27(木)	健康教育(学校保健)研修	松江合同庁舎
30(日)	しまね数リンピック	松江合同庁舎 他	
11	2(水)	管理職研修(新任校長 第2回,2年目校長)	島根県教育センター
	18(金)	小・中学校事務職員事務リーダーフォローアップ研修	島根県教育センター
	24(木)	管理職研修(新任教頭 第2回,2年目教頭)	島根県教育センター
	25(金)	小・中学校事務職員主事研修(第2回)	島根県教育センター
12	2(金)	小・中学校事務職員新任事務リーダー研修(第2回)	島根県教育センター
	6(火)	島根県学力調査(～7日;2日間で実施する場合)	各学校
	9(金)	日本語指導が必要な児童生徒研修	島根県教育センター
小・中学校特別支援学級,通級指導教室新任担当教員研修(第3回)		島根県教育センター	
1	20(金)	特別支援学級担任スキルアップ研修(第3回)	島根県教育センター
	31(火)	管理職研修(新任副校長・新任教頭 第3回)	各学校(オンライン)
2	24(金)	ミドルリーダー育成研修(第2回)	島根県教育センター
3	27(月)	R5初任者研修連絡協議会(第1回)	各学校(オンライン)

- 指定研修等を中心に記載しています。
- 今後,変更になる可能性があります。必ず「令和4年度島根県教職員研修計画一覧表」で確認願います。
- 初任者研修,経験者研修(6年目,中堅),能力開発講座等については掲載していません。